

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

学 校 法 人 名	学校法人 関西大学	大 学 名	関西大学
研 究 プロジェクト名	高齢者の意思決定支援制度を構築する開放型経済実験拠点の形成		

平成 26 年度選定「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」

研究成果報告書概要

別紙資料

- 資料 1 内部評価資料（平成 27 年、平成 30 年）
- 資料 2 外部評価資料（平成 28 年、平成 30 年）
- 資料 3 学外実験（山形県西川町）新聞記事
- 資料 4 公開講座案内（平成 28 年～平成 30 年）

研究プロジェクトの進展状況チェックシート

(評価者)

プロジェクト名: 高齢者の意思決定支援制度を構築する開放型経済実験拠点の形成	
研究期間: 平成 26 年度 ~ 平成 30 年度	研究代表者(評価責任者): 小川 一仁
評価対象期間: 平成 26 年 4 月 ~ 平成 27 年 9 月	評価日: 平成 27 年 9 月 24 日

上記の評価対象期間における本研究プロジェクトの研究進捗状況等は、以下のとおりである。

1. 研究組織について

① 研究プロジェクトを効率的・効果的に遂行するための責任ある研究体制となっているか。

■はい 【状況について:

本研究プロジェクトは、プロジェクトの採択と同時に制定された「関西大学経済実験センター運営内規」に基づき運営されている。当内規で、プロジェクトリーダーとプロジェクトメンバーとで構成される「経済実験センター推進委員会(以下「推進委員会」という。)」を議決機関として設置した。この推進委員会において、プロジェクトの事業、人事、予算執行等についての決定を行い、研究活動を実行する体制を取っている。また、経済実験室(ラボラトリ室)の設置に伴い、実験室利用規約を制定し、学内、学外の実験室利用(経済行動実験実施)に対する審査(倫理上の審査を含む)を行い、経済行動実験を実行する体制を取っている。】

□いいえ 【理由と対応策】

② 研究者間・研究チーム間の調整・連携はとられているか。

■はい 【状況について:

本研究プロジェクトは、研究チーム 4 班に分け、研究を推進している。A01 班(リーダー小川一仁)は、実験ラボの管理・運営を行い、学外者の実験実施要請に応える体制を取る。A02 班(リーダー松下敬一郎)は、高齢者個人の経済的意思決定を分析し、個人属性に関するアンケートを収集、A01 班と協力してデータベース化する。A03 班(リーダー小林創)は、他者との相互作用が存在する場合の高齢者の意思決定を分析し、A02 班のデータを援用しつつ、高齢者の行動のタイプ分けを行う。A04 班(リーダー村田忠彦)は、A02 班、A03 班が得たデータを基にエージェントをモデル化し、大規模計算機実験から政策実施前後の社会厚生の変化を分析する。プロジェクトは、平成 26 年 9 月に事業開始、平成 27 年 2 月から社会人向けの経済実験を開始した。実験回数を重ねるなかで、A01 班、A02 班、A03 班の研究連携を強めている。A04 班との連携は、27 年度は、A02 班、A03 班のデータ集約、データ分析の整理と同時進行で行うこととしているが、本格的な始動は、27 年度末からとなる。

プロジェクトメンバー間で、定期的に研究会(CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics)を開催し、メンバー間での研究情報交換と学外研究者との研究交流を図っている。また、随時、プロジェクトメンバー間でランチミーティングを実施、研究情報の交換、新規分野への研究推進に繋げている。】

□いいえ 【理由と対応策】

③ 研究支援体制は整っているか。

■はい 【状況について:

本研究プロジェクトへの研究支援体制は、母体となるソシオネットワーク戦略研究機構(以下「RISS」という。)の事務組織、ソシオネットワーク事務グループにより行われている。ソシオネットワーク事務グループは、専任事務職 2 名、研究支援スタッフ 4 名、定時事務職員 2 名が配置されており、本プロジェクトには、専任事務職 2 名(兼務)、専任研究支援スタッフ 1 名、専任定時職 1 名の

支援体制が取られており、この人員で、プロジェクトメンバーへの諸連絡、推進委員会事項、予算執行管理、プロジェクト広報(ホームページ作成)等の諸業務及び経済実験実施事項(参加者の募集、連絡、実験時の対応、報酬支払等)の諸業務に対応し、研究活動、実験実施の支援を行っている。

いいえ【理由と対応策】

④大学院学生・PD等を活用し、若手研究者の育成を行っているか。

■はい【状況について:

プロジェクト事業開始と同時に(昨年10月)にPD1名を採用、本年4月に1名を採用し、計2名のPDで研究活動を実施している。

実験実施日程、国内外への研究出張等について、PDに配慮した研究実施体制を敷き、PD育成をフォローアップしている。それぞれのPDは、自己の研究テーマに即した経済実験を実施し、現在、実験データを収集している。今後、収集データの分析を行い、研究論文作成に繋げる。また、定期的に若手研究者を中心とした研究会(GEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics)を開催、PD、プロジェクトメンバー、学外研究者の研究推進の場を提供している。また、本年2月国際ワークショップ(CEE Workshop)では、海外研究者との研究討議で、新たな知識の獲得を図り、共同研究へ繋げる方策を取っている。また、随時、PDを中心とした、プロジェクトメンバー間でのランチミーティングを実施、率直な意見交換を行い、研究活動の活性化を図っている。

いいえ【理由と対応策】

⑤共同研究機関等との連携はとられているか。

■はい【状況について:

2015年3月のワークショップ(CEE Workshop)では、筑波大学、立命館大学の経済実験研究者との研究セミナーで、研究者間の連携を深めた。2015年7月に、本プロジェクトの母体のソシオネットワーク戦略研究機構「RISS」と共に、京都大学と国際会議(実験経済学国際ジョイントワークショップ)を開催、海外研究者との研究討議を行った。また、台湾政治大学のグループとは定期的に連絡を取っており、(2015年2月、6月に小川プロジェクトリーダーが台湾を訪問)、将来的な共同研究を模索している。まだ具体的な「形」にはなっていないが京都大学、高知工科大学と実験参加者のデータを融通し合い、日本発の国際的な実験経済学拠点にする構想も存在している。

いいえ【理由と対応策】

2.研究施設・設備等の利用について

①研究施設の整備、プロジェクトに適合した装置設備の整備、装置・設備の利用はなされているか。

■はい【状況について:

研究プロジェクトの研究施設は、母体となる「RISS」建物5Fに以下の研究・実験スペースが確保されている。

経済実験室 120.0 m² 経済実験室準備室 39.6 m² 経済実験センター研究室(2部屋) 19.8 m² 計 179.4 m²

この経済実験室において、社会人(高齢者)、学生参加者による「経済実験」を実施している。実験室の設備として、PCブース28席、OHP、プリンタ、メイン操作用PCを配置し、メイン操作用PCには、実験データ管理プログラムとして、「経済実験ラボラトリ管理システム」が装填されている。また、遠隔地での経済実験用のタブレット端末PC30台が装備されている。

※経済実験室では、2014年度後半以降、学生は延べ999人、社会人延べ173人参加している。また稼働状況は、1ヵ月あたり、7.6セッションである。以上の稼働状況は他大学の同等設備と比較して、高頻度の利用である。

いいえ【理由と対応策】

3.研究計画の進捗(達成)状況、これまでの研究成果等について

①構想調書提出時(中間評価を終えた拠点では進捗状況報告書提出時)の計画と対比して、研究は進展しているか(達成度)

■はい 【状況について:

対比実験として実施している大学生向けの実験、開放型研究拠点の形成については、当初よりも研究状況は進展している。社会人向けの経済実験については、当初の予定から進捗が遅れている。これについては、以下の②、③に記載する。】

□いいえ 【理由と対応策】

②当初計画と差異が生じているか。

□生じていない

■生じている【理由と対応策:

社会人向けの経済実験参加者の獲得に苦心している。これまで、大学の社会人公開講座、スプリングフェスティバル、校友会総会等の催しで、参加者を募ってきたが、27年9月実施分からは、近郊住民に対し、ポスティングや吹田市市報への掲載(社会連携部の協力を得て)を行い、参加者獲得に注力する。また、28年度より実施予定の学外(遠隔地)での経済実験については、山形県西川町、鳥取県八頭町での実施に向け、松下教授、本西教授(共にプロジェクトメンバー)を中心に現地との交渉を進めている。】

③克服すべき問題点は生じているか。

□生じていない

■生じている【理由と対応策:

意思決定サポートをするシステムの設計には、より多くのデータとその分析が必要である。さらにモデル構築ためには、より幅広い年齢層(男女)の実験データが必要となり、実験参加者の確保が急務となっている。これまで、チラシ配布等のペーパーによる募集を中心に行ってきたが、より多数者へ周知を図るため、大学及びプロジェクトのホームページ、フェイスブック等のネットワークを利用して、積極的な募集を行う。】

④今後の研究方針(最終年度の場合は、期間終了後の展望)は確立しているか。

■はい 【方策について:

近年、研究調査手法として注目されている「フィールド実験(現地調査)」の実施により、様々な政策(特に社会人の健康政策)について、政策提言を行いたい。プロジェクトメンバーの本西教授が研究代表者として申請している「平成28年度研究拠点形成支援経費(学内研究費)」でのフィールド実験(現地調査)への協力も当研究施策の一環である。】

□いいえ【理由と対応策】

⑤構想調書に記載したメンバー全員の研究成果は公開されているか。

■はい【状況について:

プロジェクトのホームページ(HP)に研究成果を記載し、外部研究機関、外部研究者へ公開している。現時点において、研究成果に記載のないプロジェクトメンバーについても、本年(27年度)の経済実験結果に関する分析を進めてもらい、文部科学省提出時(3年目)は、メンバー全員の研究成果を記載することとする。】

□いいえ【理由と対応策】

4.評価体制について

①自己評価は実施しているか。

はい【状況について】

■いいえ【理由と対応策：平成26年度(1年目)は採択時期が6月末、事業開始が9月で、実験室設置が重点事項であり、研究実績がまだ出ていないので、自己評価は見送った。平成27年度以降、実施する。】

②外部評価は実施しているか。

はい【状況について】

■いいえ【理由と対応策：①と同じ理由で、実施を見送った。本プロジェクトの外部評価は、プロジェクトの事業開始にあたり、京都大学教授 依田高典先生、一橋大学教授 竹内幹先生、筑波大学教授 秋山英三先生の3名に外部評価委員の依頼を行い、承諾を得た。26年度は、上記①の理由で、外部評価は実施しなかったが、「平成26年度事業進捗状況報告書」を作成し、外部評価委員の方(3名)に送付した。また、同「事業進捗状況報告書」を、プロジェクトメンバー全員にも送付し、事業進捗状況について、周知した。】

※ 参考 別添「平成26年度事業進捗状況報告書」

③評価結果を反映しているか。

はい【状況について】

■いいえ【理由と対応策：2年目以降、評価を受けることにしているので、評価事項を事業に反映させることとする。】

5.外部の研究資金の導入状況について ※別添の外部資金獲得一覧をご参考としてください。

①当該プロジェクトに関連する受託研究等、指定寄付、科研費等について獲得しているか。

■はい【状況について：指定寄附金、科研費の獲得内容】

指定寄附金 25年度 プロジェクトリーダー 小川一仁 (株)ベイオーク 中古自動車流通におけるオークションの方向性を示す研究

科学研究費 26年度 プロジェクトリーダー 小川一仁 (若手B) 経済実験による目標管理制度設計と評価

科学研究費 26年度 プロジェクトメンバー 小林 創 (基盤C) 金融市場における情報開示頻度と企業合併の影響に関する理論

科学研究費 26年度 プロジェクトメンバー 村田忠彦(基盤C) 社会シミュレーションのための統計データからのエージェント生成に関する研究

科学研究費 27年度 プロジェクトメンバー 座主祥伸(若手B) 担保法制の違いが起業家行動に与える影響に関する研究

科学研究費 27年度 プロジェクトメンバー 村田忠彦(基盤C) 社会シミュレーションのための統計データからのエージェント生成に関する研究

科学研究費 27年度 PD 森 知晴(若手B) 参照点依存型効用関数による女性の労働供給行動の分析・シミュレーション

平成28年度に向け、科学研究費や新たな外部資金(厚労省、総務省等の高齢者政策に対する提言プロジェクト)への申請を行うべく、プロジェクトメンバーに示唆している。】

いいえ【理由と対応策】

6.留意事項への対応について

①採択時の意見または留意事項への対応について

該当なし

②中間評価時の留意事項について(中間評価を終えた拠点のみ)

7.特記事項

研究者の変更が生じた場合はその旨を記入

【

】

※用紙が足りない場合は適宜複写してください。

外部資金審査・評価部会からの意見等

平成 27 年 12 月 25 日

研究代表者

ソシオネットワーク戦略研究機構

社会学部

小川 一仁 准教授

研究推進委員会 外部資金審査・評価部会長

吉田 栄司

研究代表者の先生におかれましては、ご多用中、種々ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

貴プロジェクトにおかれましては、平成 28 年度に中間評価を迎えることとなりますので、学内における研究プロジェクト支援（進捗管理）の一環として「進捗状況チェックシート」及び「研究成果の概要」をご提出いただきました。

外部資金審査・評価部会において、研究の進捗状況について検討させていただきました結果、各委員から以下のようなご意見を頂きましたので、ご報告申し上げます。

来年度の文部科学省への報告書作成に際して、これらの意見をもとに、ご対応いただければ幸いです。

記

項目	コメント
1. 研究組織 について	<p>本研究プロジェクトの責任体制は、センター運営内規の制定とそれに基づくセンター推進委員会の設置以降しっかりと生まれ、経済実験を含めて順調に研究プロジェクトの運営がなされていることが伺える。研究チームも 4 班が有機的に連携して定期的な研究交流も実現しているかと思われる。大学院学生等若手の育成も図られ、他大学との連携も活発である。なお、年号表記として、冒頭記載の期間と評価日および②では平成が用いられているが、④では昨年および本年（2カ所）が用いられ、⑤では西暦が用いられているので、統一が求められよう。</p>
	<p>研究組織に関するスタート以前の計画が綿密であったためか、研究者間および研究チーム間の役割分担が明確でありかつ連携がうまく取れている。また事務組織および院生 PD からなる若手研究者ともうまく接合し、全体として研究を遂行するための組織として効果的効率的な組織運営がなされていると評価される。さらに、他大学の実験経済学の研究者や研究機関と積極的に連携をはかり、ワークショップを共同開催するなど、プロジェクトの初期段階から実績を積んでいる。</p>

外部資金審査・評価部会からの意見等

2. 研究施設・設備等について	<p>施設および設備については十分に確保されていると見受けられ、それらの稼働状況も良好かと思われる。</p> <p>研究プロジェクト推進に適した施設と装置・設備配置がなされ、それらの利用が効率よくなされている。</p>
3. 研究計画の進捗（達成）状況・これまでの研究成果等について	<p>研究計画は全体的には相応に順調のようではあるが、社会人向けの実験が当初計画よりも遅れているとのことで、それは協力者確保策の不十分性および上記支援体制の脆弱性に起因するのかもしれない。</p> <p>積極的に研究計画の推進を図っているようであるが、（ある程度予測されたことでもあろうが）社会人の参加者確保においてやや困難に直面している。しかし、高齢者の意思決定を明らかにすることがメインテーマであるため、年齢的に幅の広い参加者確保に一層の努力を期待したい。</p> <p>研究期間の前半であるが、すでに公刊された成果があり、さらに次なる研究成果の公表に向けた方向で進展している。</p>
4. 評価体制について	<p>自己評価および外部評価については、原則として年度単位かとも思われるが、事業開始から1年が経過した限りにおいて、半期2回分の相応の自己評価は可能かと思われる。外部評価のための委員委嘱はなされており、その点の準備は整っていると思われるが、年度末には1年半の評価を受け、その結果の反映を期待する。</p> <p>事業開始が平成26年9月ということもあって、外部評価はまだ受けていない。しかし、事業開始時にすでに3名の外部評価委員への協力依頼・承諾を済ませており、それらの委員に対して事業の進捗状況を報告している。外部評価への取り組みは十分なされていると判断される。</p>
5. 外部の研究資金の導入状況について	<p>これまでの外部資金の導入状況は良好かと受け止められる。年度末に向けて次年度の外部資金申請が企図されているようであり、期待される。</p> <p>プロジェクトチームの複数名が科学研究費を中心とする外部資金を獲得しており、導入に積極的であること、また外部からも研究が評価されていることが伺える。</p>
6. 留意事項への対応について	<p>特になし。</p>

外部資金審査・評価部会からの意見等

7. 特記事項 について	特になし。
8. 総合所見	<p>全体的にはきわめて良好な研究プロジェクトの進捗が果たされているものと思われる。ただ、当初の計画との関連では、③で示されているように社会人（高齢者）の経済実験データの収集に遅れが出ているとのことであり、その遅れを取り戻す手立てに関する記述がないことが惜しまれる。何らかの手立てを講じないことには、対比経済実験は成果を生み出しにくいように思われる。</p> <p>周到な準備と焦点が絞られた完成度の高い構想をもって事業を開始したため、これまでの経過は順調に推移していると思料される。実験参加者の多様性を高めることは、掲げた目標の実現に不可欠であるため、困難な課題ではあるが様々な工夫と方略を駆使して、是非克服されるよう期待する。</p>

以上

2018年10月1日

「高齢者の意思決定支援制度を構築する開放型経済実験拠点の形成」

研究代表者

ソシオネットワーク戦略研究機構

社会学部・教授・小川 一仁 殿

研究推進委員会 外部資金審査・評価部会長

吉田 宗弘

「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に係る最終評価（5年目）の結果について

このたびご提出いただきました研究成果報告書（学内評価用）につきまして、研究推進委員会の専門部会である外部資金・審査評価部会において評価した結果について、下記のとおりご報告申し上げます。

つきましては、評価結果を踏まえ、来年5月末日締切の文部科学省への報告書作成に向けたとりまとめをお願いするとともに、引き続き研究の適切な遂行に努めていただくと幸いです。

記

<総合評価点> 4.00

※総合評価点の凡例

4：優れた成果がみられた 3：成果がみられた 2：やや不十分であった 1：成果があらなかった

<評価における主な意見>

- ・「開放型経済実験拠点の形成」という観点において、申し分のない成果が得られている。特に経済実験センターの稼働状況は特筆すべきものであり、極めて意義深いものと判断する。また、行われた個々の実験等については十分な成果が述べられており、開放型経済実験拠点が有効に活用されたことも読み取れる。
- ・「高齢者の意思決定支援制度の構築」の部分に関して、実験等とおして得られた成果を統合した記述（例えば、高齢者の意思決定支援制度の構築にあたって留意すべき事項を、まとめて記述するなど）があれば、よりわかりやすい報告書になると思う。
- ・経済実験センターの今後の運営に関して、大学の支援体制が明確にできれば追記されたい。
- ・経済実験施設の設置、及びそれによる経済実験の実施と豊富な研究成果によって、重要な研究拠点へと発展している。課題も明確に意識されており、研究期間終了後も、引き続き経済実験室の維持・運営を通じて、さらなる発展が期待できる。

以 上

外部評価チェックシート（見本）

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（平成26年度～30年度）

平成 年 月 日

ご氏名：_____

研究組織名 関西大学経済実験センター

研究プロジェクト名 高齢者の意思決定支援制度を構築する開放型経済実験拠点の形成

研究代表者

研究代表者名	所 属 部 局 名	職 名
小川 一仁	社会学部	教授

研究プロジェクトの進捗状況・研究成果等

1. 研究体制について

○ 研究代表者のプロジェクト管理、役割、リーダーシップについて

5（特によい） 4（よい） 3（普通） 2（要改善） 1（特に要改善） 0（評価保留）

コメント（必要に応じてご記入ください）

○ 研究員の活動状況、各メンバーの役割、共同研究の実施について

5（特によい） 4（よい） 3（普通） 2（要改善） 1（特に要改善） 0（評価保留）

コメント（必要に応じてご記入ください）

2. 研究施設について

○ 研究を実施する十分な研究施設を備えているか。

3（よい） 2（普通） 1（要改善） 0（評価保留）

コメント（必要に応じてご記入ください）

3. 研究成果について

○ 申請時の研究計画にそった進捗が認められるか。

5 (特によい) 4 (よい) 3 (普通) 2 (要改善) 1 (特に要改善) 0 (評価保留)

コメント (必要に応じてご記入ください)

○ 研究拠点形成に向けて、十分な研究成果を実現しているか。

5 (特によい) 4 (よい) 3 (普通) 2 (要改善) 1 (特に要改善) 0 (評価保留)

コメント (必要に応じてご記入ください)

外部評価結果（平成 28 年実施）

研究組織名 関西大学経済実験センター

研究プロジェクト名 高齢者の意思決定支援制度を構築する開放型経済実験拠点の形成

研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
小川 一仁	社会学部	教授

◆外部評価委員

- ・ 秋山英三（筑波大学 大学院システム情報研究科教授）
- ・ 依田高典（京都大学大学院経済学研究科教授）
- ・ 竹内幹（一橋大学大学院経済学研究科准教授）

◆評価日：平成 28 年 6 月～7 月

◆評価結果まとめ

研究プロジェクトの進捗状況・研究成果等

評価	コメント
1. 研究体制について	
○研究代表者のプロジェクト管理、役割、リーダーシップについて（5段階）	
5（特によい）	問題なし
5（特によい）	プロジェクト管理が特によいことは、初年度プロジェクトの進捗状況から判断できる。例えば、新しく拠点を立ち上げ、開放型実験拠点にするために不可欠となる実験室の運用規定を早期に策定した点や、実験室の活発な利用状況（延べ 14 の研究グループが年間 110 回の実験（参加者延べ 1982 名）を行った）等は、周到的な管理計画が結実したものであろう。今後は、相乗効果が生かされる拠点としての研究コミュニティの一体感が醸成される段階に向けた活動が期待される。
5（特によい）	プロジェクト全体の遂行に関し、自治体との交渉、ワークショップの企画、被験者リクルーティング、実験研究に至るまで、代表自ら中心的役割を果たしている。
○研究員の活動状況、各メンバーの役割、共同研究の実施について（5段階）	
5（特によい）	問題なし。プロジェクトの経過と共に、就職活動に向けて両立できるように。
4（よい）	プロジェクトメンバーが著者となった発表論文が 21 件とあり、十分に評価ができる水準である。共同研究の体制も、計画よりも早期にオープンラボラトリ化を実現させたこともあり、今後も大きく展開していくことが推察される。共同研究が、拠点の軸となっている高齢者の意思決定支援を中心にすすめるのか、それとも、そうした枠組みをこえた大きな研究テーマが軸となっていくのか、長期的視座に立ったプロジェクトの在り方の再構成も必要となると考えられる。
4（よい）	年 110 回の実験を実施しており、非常にアクティビティが高い。まもなく投稿、出版しそうな研究も増えている。

2. 研究施設について	
○研究を実施する十分な研究施設を備えているか。(3段階)	
3 (よい)	外部実験向け簡易実験(タブレットPC)に期待する。ラボ実験を一般人を対象に実施する「人工型フィールド実験」を進めることが望まれる。
3 (よい)	2015年度の研究実績や実験実施状況をみるに、施設については万全であることがわかる。
3 (よい)	実験の頻度も非常に高く、学生、社会人の被験者プールの管理も国内外で群を抜いている。
3. 研究成果について	
○申請時の研究計画にそった進捗が認められるか。(5段階)	
5 (特によい)	研究計画に沿ったフィールドの構築、実験協力者プールの構築は順調に進んでいる。
5 (特によい)	高齢者を対象とした経済実験の実現化が要諦であったところ、現実的な手筈でプロジェクトを進捗させており、プロジェクトチームの実行力と管理能力が奏功している。
4 (よい)	—
○研究拠点形成に向けて、十分な研究成果を実現しているか。(5段階)	
4 (よい)	十分な実験プールの形成に関して、順調に進んでいる(社会人500名、大学生2000名)。実験協力者に対して、行き届いたサーベイ質問、社会選好の実験も順調に進んでいる。3年目にこうした土台作りが終了し、4、5年目に成果の創出が求められる。社会問題解決あるいは学問的インパクトの高い成果に向けて、今後も取り組むことが期待される。
4 (よい)	高齢者の意思決定支援という政策応用にかんがみれば研究成果の発表の場が国内学会中心になる必然性はあるものの、国際学会や、国際的評価の高い学術誌への公刊が可能であるはずなので、今後は、そうした国際的展開を強く目指すことがより一層期待される。そうしたレベルの高い研究成果の蓄積によって、関西大学経済実験センターは、日本国内ひいてはアジア・オセアニア地域における実験経済研究の拠点になっていくはずであり、そのことによって高齢社会の政策研究に有意義な還元がなされるであろう。
5 (特によい)	2年目にして、既に多くの実験研究の拠点になりつつある。学内外の研究プロジェクトの数も多い。特に社会人を被験者とした実験については、世界的にも稀少な研究環境を提供している。また、研究トピックとしては、自治体との共同研究が特徴的で、生駒市とのプロジェクトでは政策提言の実験研究の利用が非常に良く機能している。

外部評価結果（平成30年実施）

研究組織名 関西大学経済実験センター

研究プロジェクト名 高齢者の意思決定支援制度を構築する開放型経済実験拠点の形成

研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
小川 一仁	社会学部	教授

◆外部評価委員

- ・ 秋山英三（筑波大学大学院システム情報研究科 教授）
- ・ 依田高典（京都大学大学院経済学研究科 教授）
- ・ 竹内幹（一橋大学大学院経済学研究科 准教授）

◆評価日：平成30年6月

◆評価結果まとめ

研究プロジェクトの進捗状況・研究成果等

評価	コメント
1. 研究体制について	
○研究代表者のプロジェクト管理、役割、リーダーシップについて（5段階）	
5（特によい）	研究代表者としての役割は十分に果たされている。
5（特によい）	関西大学経済実験センターを短い期間で、国内有数の経済実験施設に育て上げた。
5（特によい）	当該拠点で行われた報告（研究）件数、延べ数千人を集めた経済実験規模、プロジェクト構成員による研究成果、いずれも卓越した水準である。
○研究員の活動状況、各メンバーの役割、共同研究の実施について（5段階）	
5（特によい）	—
5（特によい）	—
5（特によい）	—
2. 研究施設について	
○研究を実施する十分な研究施設を備えているか。（3段階）	
3（よい）	—
3（よい）	—
3（よい）	高齢社会にあつて経済実験を政策提言につなげていく方針は特に有意義であり、その役割を担う施設として十分である。

3. 研究成果について	
○申請時の研究計画にそった進捗が認められるか。(5段階)	
5 (特によい)	—
5 (特によい)	—
4 (よい)	—
○研究拠点形成に向けて、十分な研究成果を実現しているか。(5段階)	
5 (特によい)	権威のある国際ジャーナルからの出版が、増加傾向にあり、非常に高く評価できる。継続的な支援をする価値が十分にあると判断できる。
5 (特によい)	国内外の査読付き論文誌に研究成果が順調に掲載されている。実験室の稼働率も国内トップクラスで、セミナーも含め、非常に活発な研究活動が行われている。
5 (特によい)	学外メンバーを通じながら、広範な利用実績が蓄積されており、ネットワークの広がりが今後も続いていくと思います。

内陸
 地域の情報をお寄せください
 0233/22135
 0237/22101
 0237/55125
 0237/43173
 0237/86142
 社 社 社 社 社
 山 山 山 山 山
 根 根 根 根 根
 支 支 支 支 支
 社 社 社 社 社
 東 東 東 東 東
 河 河 河 河 河
 江 江 江 江 江
 支 支 支 支 支
 社 社 社 社 社

性部（鈴木幸太郎）が、部活動の活用をもた「書の中、晴見を涼感を取り付けた風情が、電車そと、2014年から「美人でさしう」とと鈴木が通みだりに地味良し音響に輝けはしている。部草。風情には、大石を鑑かせている。淡い青や赤の風情に田原英生手紙を使った花の鉢植えを飾り立てて、気持をきき元は、友人の松尾雅也が尾の花を飾り付けに飾りだしている。



大石田園工芸会が設置した風情が所々に集れはいる「大石



関西大の経済行動調査に協力する西川町民

関西大 西川町民の経済行動調査 都市と地方意識に違い？

西川町内で関西大（阪大）の経済行動調査が、26日の日程で行われてい。調査は、町民の意識として町民の経済的な意識が、都市部と地方との意識の違いについて比較対象とする。

同大のシオネットワーク戦略研究機構の松平敬二郎機構長が、町民と調査を行なったことがあり、これが縁となり、町で経済行動調査を行うことになった。

これまで主に関西大の学生を対象に実施して、地方で行うのは京都府内、町民に次いでいる。調査結果を通じて、自分のことよりも他人の利益を幸福に抱き抱え、町民の意識が、町民の意識行動の特徴が明らかになるという。

町民と社会人や高齢者が、54人が調査に協力する予定。アンケートを用いて、町民の意識を調査する。

同大のシオネットワーク戦略研究機構の松平敬二郎機構長が、町民と調査を行なったことがあり、これが縁となり、町で経済行動調査を行うことになった。



同大のシオネットワーク戦略研究機構の松平敬二郎機構長が、町民と調査を行なったことがあり、これが縁となり、町で経済行動調査を行うことになった。

4人がブロック大会へ
 県少年の主張、村山地区大会

第5回県少年の主張大会（山形新聞）山形放送など主催）の村山地区大会が26日、東根市の真根一で開かれた。審査の結果、最優秀賞に輝いた東根一中3年青山純輝さんと上立4人が県北ブロック大会（9月14日）大石田園工芸会への出場を決めた。

村山地区大会の8中学校から口人出場。青山純輝さん、田村蘭さん、真田愛美さん、青山和さん、田村蘭さん、真田愛美さん

大石町が、昭和初期に建てられた歴史的建築物「旧きりやか廻り大石香」（左記）を、旧大石町中心街地の再開発を昨年からは、事業化は東根北荒工業大コミニティサイエンスの学生が、町民への聞き取り調査や、地元住民の考えを聞き交際を聞きながら、旧きりやかした町の将来の創出に向けて動いている。



このため、町民が、旧きりやか廻り大石香の管理運営者募集を9月1日まで募集。本格的な利活用に向けて、町民が参加するまちづくり交流会を今後開催する。設計事業者との打ち合わせなどに参加するほか、18年度からの指定管理運営の下は、飲食スペースの運営（外部委託可能）②レンタルスペースの利用許可、料金徴収③観光情報、地域情報④産品の展示⑤振興・交流イベントの開催⑥などの業務を想定している。

町民が、旧きりやか廻り大石香の管理運営者募集を9月1日まで募集。本格的な利活用に向けて、町民が参加するまちづくり交流会を今後開催する。設計事業者との打ち合わせなどに参加するほか、18年度からの指定管理運営の下は、飲食スペースの運営（外部委託可能）②レンタルスペースの利用許可、料金徴収③観光情報、地域情報④産品の展示⑤振興・交流イベントの開催⑥などの業務を想定している。

旧きりやか廻り大石香が、昭和初期に建てられた歴史的建築物「旧きりやか廻り大石香」（左記）を、旧大石町中心街地の再開発を昨年からは、事業化は東根北荒工業大コミニティサイエンスの学生が、町民への聞き取り調査や、地元住民の考えを聞き交際を聞きながら、旧きりやかした町の将来の創出に向けて動いている。



改修工事が終わった後、6月に開かれた旧きりやか廻り大石香の利活用案を考える学生と町民の活動拠点として使われる＝大石町大石

町民が、旧きりやか廻り大石香の管理運営者募集を9月1日まで募集。本格的な利活用に向けて、町民が参加するまちづくり交流会を今後開催する。設計事業者との打ち合わせなどに参加するほか、18年度からの指定管理運営の下は、飲食スペースの運営（外部委託可能）②レンタルスペースの利用許可、料金徴収③観光情報、地域情報④産品の展示⑤振興・交流イベントの開催⑥などの業務を想定している。

町民が、旧きりやか廻り大石香の管理運営者募集を9月1日まで募集。本格的な利活用に向けて、町民が参加するまちづくり交流会を今後開催する。設計事業者との打ち合わせなどに参加するほか、18年度からの指定管理運営の下は、飲食スペースの運営（外部委託可能）②レンタルスペースの利用許可、料金徴収③観光情報、地域情報④産品の展示⑤振興・交流イベントの開催⑥などの業務を想定している。

町民が、旧きりやか廻り大石香の管理運営者募集を9月1日まで募集。本格的な利活用に向けて、町民が参加するまちづくり交流会を今後開催する。設計事業者との打ち合わせなどに参加するほか、18年度からの指定管理運営の下は、飲食スペースの運営（外部委託可能）②レンタルスペースの利用許可、料金徴収③観光情報、地域情報④産品の展示⑤振興・交流イベントの開催⑥などの業務を想定している。

町民が、旧きりやか廻り大石香の管理運営者募集を9月1日まで募集。本格的な利活用に向けて、町民が参加するまちづくり交流会を今後開催する。設計事業者との打ち合わせなどに参加するほか、18年度からの指定管理運営の下は、飲食スペースの運営（外部委託可能）②レンタルスペースの利用許可、料金徴収③観光情報、地域情報④産品の展示⑤振興・交流イベントの開催⑥などの業務を想定している。

町民が、旧きりやか廻り大石香の管理運営者募集を9月1日まで募集。本格的な利活用に向けて、町民が参加するまちづくり交流会を今後開催する。設計事業者との打ち合わせなどに参加するほか、18年度からの指定管理運営の下は、飲食スペースの運営（外部委託可能）②レンタルスペースの利用許可、料金徴収③観光情報、地域情報④産品の展示⑤振興・交流イベントの開催⑥などの業務を想定している。

町民が、旧きりやか廻り大石香の管理運営者募集を9月1日まで募集。本格的な利活用に向けて、町民が参加するまちづくり交流会を今後開催する。設計事業者との打ち合わせなどに参加するほか、18年度からの指定管理運営の下は、飲食スペースの運営（外部委託可能）②レンタルスペースの利用許可、料金徴収③観光情報、地域情報④産品の展示⑤振興・交流イベントの開催⑥などの業務を想定している。

町民が、旧きりやか廻り大石香の管理運営者募集を9月1日まで募集。本格的な利活用に向けて、町民が参加するまちづくり交流会を今後開催する。設計事業者との打ち合わせなどに参加するほか、18年度からの指定管理運営の下は、飲食スペースの運営（外部委託可能）②レンタルスペースの利用許可、料金徴収③観光情報、地域情報④産品の展示⑤振興・交流イベントの開催⑥などの業務を想定している。

町民が、旧きりやか廻り大石香の管理運営者募集を9月1日まで募集。本格的な利活用に向けて、町民が参加するまちづくり交流会を今後開催する。設計事業者との打ち合わせなどに参加するほか、18年度からの指定管理運営の下は、飲食スペースの運営（外部委託可能）②レンタルスペースの利用許可、料金徴収③観光情報、地域情報④産品の展示⑤振興・交流イベントの開催⑥などの業務を想定している。

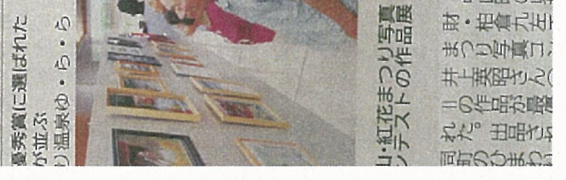
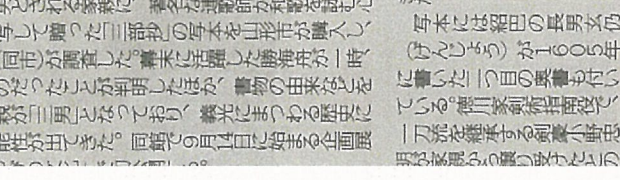
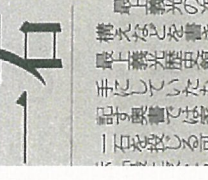
町民が、旧きりやか廻り大石香の管理運営者募集を9月1日まで募集。本格的な利活用に向けて、町民が参加するまちづくり交流会を今後開催する。設計事業者との打ち合わせなどに参加するほか、18年度からの指定管理運営の下は、飲食スペースの運営（外部委託可能）②レンタルスペースの利用許可、料金徴収③観光情報、地域情報④産品の展示⑤振興・交流イベントの開催⑥などの業務を想定している。

町民が、旧きりやか廻り大石香の管理運営者募集を9月1日まで募集。本格的な利活用に向けて、町民が参加するまちづくり交流会を今後開催する。設計事業者との打ち合わせなどに参加するほか、18年度からの指定管理運営の下は、飲食スペースの運営（外部委託可能）②レンタルスペースの利用許可、料金徴収③観光情報、地域情報④産品の展示⑤振興・交流イベントの開催⑥などの業務を想定している。

町民が、旧きりやか廻り大石香の管理運営者募集を9月1日まで募集。本格的な利活用に向けて、町民が参加するまちづくり交流会を今後開催する。設計事業者との打ち合わせなどに参加するほか、18年度からの指定管理運営の下は、飲食スペースの運営（外部委託可能）②レンタルスペースの利用許可、料金徴収③観光情報、地域情報④産品の展示⑤振興・交流イベントの開催⑥などの業務を想定している。

町民が、旧きりやか廻り大石香の管理運営者募集を9月1日まで募集。本格的な利活用に向けて、町民が参加するまちづくり交流会を今後開催する。設計事業者との打ち合わせなどに参加するほか、18年度からの指定管理運営の下は、飲食スペースの運営（外部委託可能）②レンタルスペースの利用許可、料金徴収③観光情報、地域情報④産品の展示⑤振興・交流イベントの開催⑥などの業務を想定している。

町民が、旧きりやか廻り大石香の管理運営者募集を9月1日まで募集。本格的な利活用に向けて、町民が参加するまちづくり交流会を今後開催する。設計事業者との打ち合わせなどに参加するほか、18年度からの指定管理運営の下は、飲食スペースの運営（外部委託可能）②レンタルスペースの利用許可、料金徴収③観光情報、地域情報④産品の展示⑤振興・交流イベントの開催⑥などの業務を想定している。



町民が、旧きりやか廻り大石香の管理運営者募集を9月1日まで募集。本格的な利活用に向けて、町民が参加するまちづくり交流会を今後開催する。設計事業者との打ち合わせなどに参加するほか、18年度からの指定管理運営の下は、飲食スペースの運営（外部委託可能）②レンタルスペースの利用許可、料金徴収③観光情報、地域情報④産品の展示⑤振興・交流イベントの開催⑥などの業務を想定している。

日本経済新聞

2017年3月13日 (月)

- Web刊 速報 ビジネスリーダー マーケット テクノロジー アジア スポーツ マネー ライフ 朝刊・夕刊 Myニュース 会社情報 人事ウォッチ
- 全て 経済 企業 国際 政治 株・金融 スポーツ 社会 地域ニュース▼ プレスリリース

Q 記事 株価

速報 > 地域ニュース > 東北 > 記事

山形・西川町民「関西人より利他的」 関西大が実験結果報告

2017/3/11 7:00

Twitter Facebook 保存 印刷 その他

「山形県西川町の住民は、関西の人たちより利他的」――。関西大学の調査でこんな結果が得られ、9日、同町で中間報告された。西川町は昨年7月、「西川版幸福指標」づくりを目指して「西川町里山社会・文化研究所」を立ち上げており、その一環として関西大が調査。町民の他人に対する優しさが評価された。

調査は、行動経済学の「独裁者ゲーム」という実験。2人1組で独裁者役と受取人役に分かれ、独裁者が自由に分配できるお金をいくら相手に渡すかを調べることで、自分を犠牲にして他人のために資する「利他性」を測定できるとされる。

西川町の住民は、お金の平均47%を他人に渡したのに対し、関西人の場合は30%、関西大の学生は17%しか渡さなかった。西川町では半額を渡す人が最多だったのに対し、関西大の学生は1銭も渡さないが最多だった。

調査した小川一仁教授は「西川町の人たちが関西の人たちよりも利他的であることを示すデータで、利他的な行動規範が根付いている可能性がある」としている。同町は「地域の宝」である「人柄のよさ」を裏付けるデータの一つになるとみている。

Twitter Facebook 保存 印刷 その他

< 電子版トップ < 速報トップ

関連キーワードで検索

関西大学、西川町里山社会・文化研究所、小川一仁、西川町

日経電子版ビジネスフォーラム採録「DXで変わる新時代の企業戦略」/NTT Com

鹿児島県の限界集落“ロケットの町”から“ロボットの町”へ？/日経BP特集
 マンションを知り尽くした大手7社が集結したマンションサイト【メジャー7】
 八塩圭子が行く進出企業訪問記。ジョイフル本田の事業用地戦略/UR都市機構
 三井不動産レジデンシャルの提案：新しい都心の暮らし方「パークタワー晴海」
 自分を磨け「粋な男」のスペシャルツアー/アメリカン・エキスプレス

日経電子版特集 [PR]

TOKYO GARDEN PROJECT

東京メトロ丸の内線5分
「南阿佐ヶ谷」駅 徒歩5分
Marunouchi Line

第一種低層住居専用地域

普福寺川緑地 完成予想図

職住近接の利便性と豊かな自然の両立。
都市生活の新しいかたちとは？

PROUD プラウドシティ阿佐ヶ谷 野村不動産 安藤ハザマ

主要ジャンル速報

経済

J P X日経中小型指数、1万2787で始まる 13...
 2月企業物価、1.0%上昇 前月比は0.2%上昇
 1月の機械受注3.2%減 市場予測下回る
 日・サウジ、経済協力深化 企業進出へ特区

企業

J X、アラムコと製油所 サウジでの提携検討
 東芝、東芝テック株売却へ POSレジ最大手
 第一生命、健康なほど保険料安く 異業種と開発
 トヨタのベア、前年下回る1300円 家族手当で...

日経平均(円) 3/13 9:13	19,592.88	-11.73	-0.06%
NYダウ(ドル) 3/10 終値	20,902.98	+44.79	+0.21%
日経アジア300 3/13 9:13	1,123.38	+1.65	+0.14%
ドル(円) 3/13 8:53	114.76-77	-0.64円高	-0.55%
ユーロ(円) 3/13 8:53	122.67-71	+0.44円安	+0.35%
長期金利(%)	--		
NY原油(ドル) 3/12 20:03	48.01	-0.48	-0.98%

日経平均について (銘柄一覧) Quick

FUJITSU
 お客様のデジタル革新を加速する
MetaArc
 メタアーク

日経からのお知らせ >
 来春の新入社員を募集 記者など4職種

日経電子版の活用方法 >
 【週末新紙面】宅配+電子版お試し実施中！

おすすめ情報

- 国公立二次 後期試験の問題・解答 **大学入試速報**
- プロが教える おいしい東京のホテル朝食 **トラベル**
- 和洋中まるごと楽しむ横浜のお店巡り **レストラン**
- タカタとパロマ問題に共通する「誤解」 **BizGate**
- 夏も冬も、札幌で遊びつくせ！ **ゲーテ**
- 年収1000万円は序章にすぎない... **エグゼクティブ**
- 社員の英語力、嘆く前に研修の見直し **English**
- 感動する「劇的ネーミング」の作り方 **BizGate**

[PR]トレンドウォッチ 一覧>

新着

- ・田崎真也のメルセデス・ベンツ最新ワゴン評価
- ・機動力と礼節を兼ね備えた超軽量ビジネスバッグ
- ・男は70歳からと語る、光のソムリエの健康管理

ビジネス

- ・IoTで意外な存在感を發揮する通信大手の強み
- ・業界トップ企業グループが直面した壁の壊し方
- ・誰一人取り残さない、持続可能な世界をつくる

暮らし

- ・セルフメディケーション税制の仕組みと活用法

西川・経済行動調査の中間報告

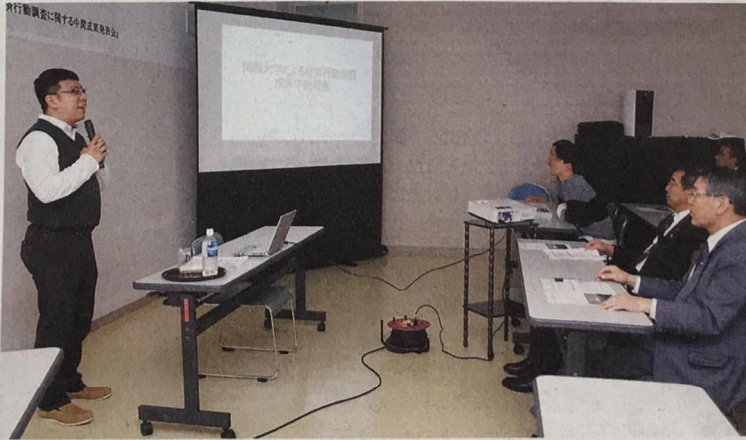
「施し」は町民の美德

西川 西川町の住民を対象に、関西天(大阪府)が昨年8月から行ってきた経済行動調査の成果中間報告会が、同町の交流センターで開かれた。簡単なゲームから住民の利他性を測定するという調査から得られた結果が発表され、大阪府と比べて同町住民は「利他的」であることが分かった。町は第6次総合計画の中で掲げる「西川版幸福指標」創設に向けた客観的な裏付けとして役立てていく。

町「幸福指標」への裏付けに

調査は昨年8月、11月、小川一仁教授が発表。分
今年3月の計3回行われ、配額が多いほど利他的で
れ、90人超の町民が参加。ある傾向が強い結果とな
お金を渡す側と受け取ることを説明した上で、
側の2人一組になり、渡す側が大阪府北部地域で行った
す側が2千円を持っていき、大阪府北部地域で行った
た場合、いくら渡すのか、大阪府北部地域で行った
を調べた。部で平均分配額が595円、地域之宝で他地域と
成果報告会は同大社会部で平均分配額が595円、地域之宝で他地域と
学部経済実験センターの川は同943円と分配額
報告会は幸福指標の創

この結果から小川教授は「西川の人々は利他的で平和主義的である可能性が示唆される」と説明し、「利他的な行動規範が根付いている」とした。報告会は幸福指標の創



町民を対象にした経済行動調査の結果を報告する
関西大社会学部経済実験センターの小川一仁教授
(左) 西川町交流センター

設に向け、地元で暮らす業として9日に開催。同
ことの評価観を見詰め直大は引き続き、今後も町
すための組織「里山社会の有効な施策実現につな
・文化研究所」の主催する調査を行っていく。

市民公開講座

第13回 ひと・健康・未来シンポジウム2016 浜松

加齢を知る、 老いを健やかに

2016年 **12月3日** ⑤ 13:00～16:30 (12:30開場予定)

アクトシティ浜松 コンgressセンター4階41会議室

定員400名(自由席) 参加費/無料(事前のお申し込みが必要です)

老いは誰にでも訪れます。しかし、どう迎えるかは人それぞれです。
では、老いとはいつからはじまり、どういう状態を云うのでしょうか、
準備や心構えは必要でしょうか。

老いは幕引きと考える人がいますが、本当にそうでしょうか。

例えば、老いは始まりと考えるのはどうでしょうか。

このシンポジウムでは3つの観点(自然科学的、経済学的、医療・心理学的)から
「老い」を考えます。

開会挨拶

自然科学的観点から

老化のメカニズム：健康長寿の実現のために

千葉 卓哉(早稲田大学人間科学学術院 教授)

経済学的観点から

高齢者の経済行動：「振り込め詐欺」などに遭わないために

小川 一仁(関西大学社会学部 教授)

医療・心理学的観点から

長寿の生涯の健康と生きがい

奈倉 道隆(東海学園大学名誉教授、介護福祉士・老年科医)

総合討論

コーディネーター

河田 照雄(京都大学大学院農学研究科 教授、公益財団法人ひと・健康・未来研究財団 理事)

参加受付

2016年11月30日(水)までに、氏名(ふりがな)・連絡先を明記の上、FAXまたはE-mailにて下記までお申込み下さい。締切日前でも定員に達した場合はお断りする場合がございます。締切日を過ぎた場合は、下記事務局までお電話にてお問合せ下さい。

公益財団法人 ひと・健康・未来研究財団

事務局(担当：森田 直子)

TEL&FAX 075-212-1854

E-mail hitokenkoumirai@jnhf.or.jp



〈電車でご来場の場合〉JR浜松駅からは徒歩で5～10分程です。

〈お車でご来場の場合〉有料駐車場となります。

加齢を知る、 老いを健やかに

2017年7月15日(土) 13:00~16:30

ホテル広島サンプラザ 3F「金銀星」

広島市西区商工センター3丁目1番1号 TEL 082-278-5000

定員400名(自由席) **参加費/無料**(事前のお申し込みが必要です)

老いは誰にでも訪れます。しかし、どう迎えるかは人それぞれです。
では、老いとはいつからはじまり、どういう状態を云うのでしょうか、
準備や心構えは必要でしょうか。

老いは幕引きと考える人がいますが、本当にそうでしょうか。

例えば、老いは始まりと考えるのはどうでしょうか。

このシンポジウムでは3つの観点(自然科学的、経済学的、医療・心理学的)から
「老い」を考えます。

開会挨拶

自然科学的観点から

老化はなぜおこるのか：健康長寿の実現のためにできること

千葉 卓哉(早稲田大学人間科学学術院 教授)

経済学的観点から

高齢者・流動的知性・経済的意思決定

小川 一仁(関西大学社会学部 教授)

医療・心理学的観点から

長寿の生涯の健康と生きがいー老年学・介護福祉の立場からー

奈倉 道隆(東海学園大学 名誉教授、介護福祉士・老年科医)

総合討論

コーディネーター

河田 照雄(京都大学大学院農学研究科 教授、公益財団法人ひと・健康・未来研究財団 理事)

参加受付

参加ご希望の方は、FAXまたはE-mailでお申し込みください。
お名前(ふりがな)・連絡先(FAX番号またはE-mailアドレス)を必ずご記入
ください。

定員になり次第締め切らせていただきます。ご不明な点はお電話にてお問い合わせ
ください。

公益財団法人ひと・健康・未来研究財団

事務局(担当：森田 直子)

TEL&FAX 075-212-1854

E-mail hitokenkoumirai@jnhf.or.jp



〈電車でご来場の場合〉JR新井口駅より徒歩5分、広島電鉄(宮島線)商工センター入口より徒歩5分

〈お車でご来場の場合〉山陽自動車道五日市I.C.より約10分

公開講座

「経済行動調査」研究成果報告会

いまや、高齢の方は我が国の経済活動の重要な担い手となっています。本学経済実験センターでは、年齢を経るにつれて他者への寄付が増えるかどうか、他者に対して平等な扱いをするかどうかに関するデータなどを収集いたしました。今回は、そのうち、2015年から17年にかけて行った調査の研究成果報告会を開催いたします。

午前の部 11:00～12:30 講演者 小川一仁 (社会学部教授)
「高齢者は他人に優しい？ - 寄付実験から見える考察 -」

午後の部 14:30～16:00 講演者 川村哲也 (経済実験センターPD)
「高齢者は平等主義者？ - 分配実験から見える考察 -」

日時 2017年 7月29日 (土) 午前の部 11時00分～12時30分
午後の部 14時30分～16時00分

会場 関西大学 梅田キャンパス KANDAI Me RISE 8階 大ホール
〒530-0014 大阪府大阪市北区鶴野町1番5号
1階にスターバックスコーヒーとTSUTAYA BOOK STOREが入っている建物です。
駐車場、駐輪場はございません。

定員 80席 当日空席がある場合は事前申込無しでも参加いただけます

対象者 どなたでも参加いただけます。
(ただし、お聞きいただいた講座の実験には参加できなくなります)

聴講無料・事前申込要

お申込み・お問い合わせ：関西大学 経済実験センター

E-mail cee@ml.kandai.jp

住所 〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35

URL <http://www2.kansai-u.ac.jp/cee/>

Tel/Fax 06-6368-1228 / 06-6330-3304



お申込みは、右記のQRコードにアクセスしていただくか、氏名（フリガナ）・住所・電話番号・参加希望日時を記載の上、電子メール、はがき、FAXのいずれかでお申込みください。（定員：先着80名）

※お問い合わせ先は、講座当日は繋がりません。当日のキャンセル連絡は不要です。



公開講座

‘18. **8/4** (土)

開催日時

11:00～15:30

【会場】関西大学 梅田キャンパス
KANDAI Me RISE 8階 大ホール
大阪府大阪市北区鶴野町1番5号

1階にスターバックスコーヒーとTSUTAYA BOOK STOREが入っている建物です。駐車場、駐輪場はございません。

【対象者】どなたでも参加いただけます

【定員】各回80名

参加料
無料

事前申込
不要



11:00～12:30

誰が他人とどのように協力するの？

関西大学社会学部教授

小川一仁 経済実験センター長

人々の協力は組織や学校、地域の現場で必要不可欠です。関西大学経済実験センターで実施しました調査に基づき、本講座ではどのような人が協力的なのか、どのようにして他人と協力するのかをお話します。

14:00～15:30

詐欺的・ボッタクリ金融商品から身を守るには？

関西大学経済学部教授

本西泰三 ソシオネットワーク戦略研究機構長

私たちが人生設計を考えるうえで、金融知識は極めて重要なものですが、ほとんどの人にはこれを十分に学ぶ機会が与えられていません。このため、こうした無知に付け込む金融商品が後を絶たないのが実情です。関西大学が実施した、人々の金融行動と金融リテラシーに関する全国調査などに基づいて現状を分析し、金融リテラシーを高め、悪質商法から身を守る方法について報告します。

共催／関西大学経済実験センター 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構 文部科学大臣認定共同利用・共同研究拠点

お問い合わせ／E-mail cee@ml.kandai.jp / TEL (06)6368-1228<http://www2.kansai-u.ac.jp/cee/>

受付時間：月～金 9:00～17:00／開催日はメール対応のみ